

(2)平成18年度科学研究費補助金 系・分野・分科・細目表の別表
 時限付き分科細目表

分野	内容	細目番号	設定期間
都市	都市には地球人口の70%以上が住んでいる。人間諸活動の空間的な場としての「都市」が、今日までどのような歴史を歩み、今後どのように変容して行くか、またどのように変容しなければならぬか、そして固有の諸条件に従いながら、如何に既存都市を変容させ、各々の固有の諸条件に合った新しい都市を形成してゆくべきか、そして都市においてどのように人間諸活動を営むべきかについて、多面的な研究の展開を期待する。	9011	
「総合的な学習」の カリキュラム開発	平成10年に告示された学習指導要領において創設された小学校3学年から高等学校までの「総合的な学習の時間」は、各教科とは独立して設定されており、学習指導要領には教科の場合のような目標・内容等は示されていない。各学校が創意工夫をこらして企画・実践することが求められている。このため、既存の「教科教育学」の細目では扱いにくい面がある。したがって、独立に細目を設定することにより、学習指導要領が例示しているような、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童・生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題にかかわる学習のためのカリキュラム開発についての実践的・臨床的研究が期待される。	9012	
食の安全	近時、必ずしも安全ではない食料がグローバルに流通するようになった。国民に安寧な生活を保障するために、食に関連したリスクを管理し、評価する研究と食料の安全性についての正確かつ強力な科学的根拠を提供することが求められている。食料が農場から食卓、更には体内にまで至る流通経路・代謝過程の中で、人体に危害をもたらす可能性のある要因を科学的に解析し、その危害の予防法や排除技術の開発に資する科学的根拠を構築することを目標とした研究が望まれる。 健康被害をもたらす病原体、内因性及び外因性有害物質の検出とそれらによる危害阻止に資する技術やシステムの開発、病原生物の安全性評価、病原生物の薬剤抵抗性・感受性の評価、内因性及び外来性物質の安全性評価、安全性評価手法の開発、食品の取扱法・輸送法・貯蔵法に関する研究を行うとともに、食源性プリオン病治療予防に資するために、モデル系を利用したプリオンの異常プリオンへの転換過程の解明等を期待する。	9014	平成16年度 ～ 平成18年度
睡眠学	睡眠研究の進展は顕著であるが、まだ不明の領域も多く、睡眠機構や睡眠の生理学的意義の真の解明は今後の課題となっている。また、不眠、過眠等の睡眠障害に悩む多くの患者を生むと同時に睡眠障害による社会問題も発生している。そこで、本領域では睡眠を司る神経生理学的基盤の解明、睡眠制御の分子基盤の解明を推進して睡眠の基本的理解に迫る。また、睡眠異常に関する臨床的研究、薬物の睡眠への影響、薬理作用等についても研究し、睡眠障害の克服を目指す。これらの研究領域が相互に関連する細目として「睡眠学」という共通の分科細目を独立して設定することにより、睡眠に関する総合的な研究の展開を図る。	9015	
アレルギー	今や国民の3割近くが何らかのアレルギー疾患に悩まされていると言われ、大きな社会問題となっている。「アレルギー」のキーワードは、内科系臨床医学の「膠原病・アレルギー・感染症内科学」等にみられるが、臨床的観点からアレルギー疾患を研究するという側面が強く、必ずしも基礎免疫学的なアプローチでアレルギー病態の解析がなされているとはいえない。一方、基礎医学の細目「免疫学」は非常に広範囲な免疫研究をカバーしており、アレルギー研究の採択は非常に少ない。このような現状を鑑みて、臨床アレルギー学、基礎免疫学の枠を越えて、薬学、獣医学、生物学など広い分野の研究者の緊密な連帯を促し、アレルギーの病態の解明を目指す。	9017	
廃棄物システム	廃棄物処理・循環システムは、人間の営みに不可欠であり、法システム、社会システム、人間の行動様式の分析等の人文社会系研究分野と、技術的システム開発等の理工系・生物系研究分野が関わる研究課題である。例えば、廃棄物問題の解決には技術的制御と経済的制御に加え、行動科学や社会心理学などからのアプローチが不可欠である。分野に分かれた個別の研究ではなく、異なる分野の研究者が有機的に結びついた、連携・横断型の総合的な取り組みにより、実社会に適用可能な成果を期待する。	9018	
社会開発と文化	発展途上国における開発の現場は、過去20年間に大きな変貌を遂げた。経済成長、治安維持等を第一義とする現地自生的な社会開発の理念は後退し、国際協調に基づき、現地の状況に即応した開発モデルとその実践が現在試みられている。この傾向は、武力紛争や大災害後の緊急支援活動(=迅速性・柔軟性)、国際的経済協調を背景とする地域開発計画(=グローバル性)、ジェンダーや持続的開発に配慮した地域住民志向の小規模社会開発(=文化的感受性)という3つの領域でとりわけ顕著である。 欧米ではこの分野に関する応用開発人類学の強い伝統があるのに対し、我が国の研究は、先駆的で萌芽的な諸研究がさまざまな分野で生まれているとはいえ、いまだ端緒にすぎない。開発および開発に対する国際協力の社会・文化的側面の研究、開発に伴う地域伝統・危機言語・少数言語の保護と変容に関する研究、「社会正義」など開発の価値と倫理に関する研究、国際協力における文化人類学の実践的成果利用に関する研究などの研究を奨励し、交流と統合を促進することが望まれる。	9019	平成17年度 ～ 平成18年度
人材育成と 技術者倫理	科学技術の分野に参入する若い優秀な人材を確保し、独創的な技術を創出する人材の育成が重要な課題となっている。また、科学技術の高度な発展により、従来は考えられなかったような事故が頻発するとともに、技術者倫理の未確立や技術者倫理教育の未浸透等を原因として、技術者倫理に反するような行為が目立つようになり、技術者・技能者の高度な倫理観の確立が必要になっている。すなわち、国民の間で広がっている技術の安全に関しての危機の念を払拭するための抜本的方策が必要である。 国際的には技術者資格の取得・更新には継続教育が必須条件とされ、その中でも技術者倫理の重要性が認識されており、技術者・技能者の能力開発とその方法、継続教育(CPD)の方法、事故および技術的失敗例の分析とその防止策、技術者倫理に関する事例分析と教育、技術・技能および伝統意識の継承などの研究を進める。	9020	

分野	内容	細目番号	設定期間
極限環境生物学	<p>極限環境、すなわち超高温・超低温、超高压、強酸・強アルカリ、高塩濃度、乾燥、強線照射下など、極めて特殊な条件下でも生存し増殖する生物(極限環境生物)が多数存在することが知られている。</p> <p>約38億年前に誕生した原始生命はアーケア・ユーカリアの起源となる生物とバクテリアの起源となる生物に分かれ、独立に進化した。特に好熱性アーケア・ユーカリアの起源に相当する微生物が、地球の様々な極限環境に適応しながら生存圏を広げていき、アーケアとなり、また一方で好気呼吸機能を獲得したバクテリアの共生を受け原始真核生物(ユーカリア)へと進化した可能性が高い。極限環境下の生命誕生、真核生物への進化、および極限環境に対する適応戦略を、細胞生物学、分子生物学、生態学、生理学等の様々な視点から研究することによって、生物の進化や環境適応機構といった生物学における重要課題に対する知見が蓄積できる。さらに、当分野の研究によって得られる知見は、極限生物が生成する種々の酵素をはじめバイオテクノロジーの様々な分野で応用され、今後も多方面へ発展することが期待される。</p>	9021	平成17年度 ~ 平成18年度
世代間衡平性	<p>年金制度の改革(現時点で重複共存する世代間の所得移転と負担の衡平性問題)から、地球温暖化問題に対処する国際的的制度設計と合意形成問題(長期的な環境外部性のもとで限られた資源を異時点間で効率的かつ衡平に配分する問題)など、多くの重要な経済問題の核心に「世代間衡平性」という共通の重要問題が含まれている。また、雇用慣行の大きな変化に伴う現代の若者の就業困難性の問題も、「世代間衡平性」の問題を含んだものとして捉えることができる。</p> <p>これらの「世代間衡平性」に関する問題を含む課題、すなわち地球温暖化、世代間所得移転、社会保障制度、若者の就業困難性、異時点間資源配分等の課題は、経済学・倫理学・法哲学や社会学や環境政策学などの専門分野に共通するコアとなる課題として位置づけることが可能であり、これらの分野の理論的研究と応用的研究の双方から分野横断的な研究が展開されることを期待する。</p>	9022	
大学改革・評価	<p>大学改革・評価は焦眉の課題である。すなわち、若年層の減少や国立大学の法人化等に起因するかつてない変革期における経営・研究・教育に関わる課題について、日本固有の高等教育機関の文化・土壌の上で、自ら継続的に改善・向上していくための独自の大学改革が求められている。また、このような大学改革を進めるために大学を多面的・総合的に評価するための適正な手法の構築が必要である。</p> <p>大学改革・評価では、大学が如何に独自の経営、研究、教育の戦略を立て、大学の諸活動の改善・向上を図れるかが重要である。例えば、大学の諸活動に関する情報の効果的な収集やデータベースの構築手法、公正な大学評価のための評価指標、国際的に通用する教育の質の保証に関する研究、大学の諸活動の改善・向上のための目標設定と改善・向上につながる経営管理手法・評価方法に関する研究などが挙げられる。「科学技術政策」、「政治学」、「組織論」、「経営学」、「教育論」等の多方面からのアプローチにより大学改革の様々な切り口に考察が加えられ、大学改革・評価の一層の進展に大きく寄与する研究を期待する。</p>	9023	平成18年度 ~ 平成19年度
医療における生命倫理	<p>先端医学研究の進展により、個人情報保護法の施行や遺伝子解析研究・生命倫理に関する指針の制定に関連して、倫理的な問題をはらむ医学研究の現状を把握することが重要である。また、再生医療・個別化医療の時代に向けて、わが国の社会一般の先端医療に対する理解度を評価し、研究者側から社会一般の遺伝情報・生命倫理に対する認識を深めるための働きかけが望まれる。従来の医学研究の研究のレベルを超え、人間の尊厳を守るために人文・社会科学も含めた学際的な研究を推進し、インターネットを利用した情報提供システムの構築とプライバシー保護の両立をはかる問題、適切な法規制の実現、研究者と一般社会間の双方向議論、医療における遺伝情報・生命倫理の国際比較による今後の問題点の把握など、社会に還元される研究の発展を期待する。</p>	9024	
疼痛学	<p>「疼痛」は、人のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を低下させる大きな要因であり、鎮痛は21世紀における医療の最大課題の一つである。</p> <p>薬理学、感覚器学、神経科学などの分野で行われている「疼痛」に関する研究-例えば、疼痛形成・制御機序に関する神経科学的・生化学的・分子生物学的研究、疼痛伝達・制御機序に関する神経生理学的・病態生理学的研究、疼痛形成・伝達に及ぼす情動の影響とその機序に関する神経生理学的・臨床心理学的研究、画期的鎮痛薬の探索、新規鎮痛薬の薬効、副作用とその機序に関する基礎薬理学的、前臨床医学的、臨床医学的研究、難治性疼痛治療に関する学際的、融合的研究(ペインクリニック、臨床心理学等)、痛みの感受性を調節する遺伝的要因、発生・発達・加齢や性による痛みの変化機構)等-を、「疼痛学」として総合的に推進されることを期待する。</p>	9025	
国際保健医療研究	<p>国際化社会の進展に伴い、人間の安全保障という新しい概念が世界の共通認識となりつつあり、改めて国際保健医療協力の重要性が叫ばれている。これまでODA等により診療・医療技術移転など実務上の国際医療協力におけるインフラの整備は進んでいるが、国際保健医療研究というソフト面での支援も求められてきている。新興・再興感染症や開発途上国の近代化に伴う生活習慣病の激増など、先進国にとっても重要な疾病に関する研究の重要性はますます増大している。医療人類学、国際開発学、国際関係論、地域研究等の観点から、また、新興感染症、生活習慣病における人種間の比較や特定地域での比較等のアプローチにより国際保健医療研究が推進されることを期待する。</p>	9026	

(注1) この表は、本表と併せて基盤研究(C)(審査区分「一般」)についてのみ適用されるものです。
(注2) 設定期間は公募を行う年度です。設定期間にかかわらず2~4年間の研究課題を対象とします。